

循環型社会の構築に向けて

－JICAの3R (Reduce, Reuse, Recycle)に関する取り組み－

持続可能な開発の実現のためには、廃棄物などのリデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)という「3R」を通じ、資源の消費を減らし、環境への負荷の少ない循環型社会を構築していくことが必要です。循環型社会の構築は、地球温暖化防止にも貢献し、世界全体の持続可能な開発のために不可欠のプロセスであり、一国のみならず世界全体で取り組むべき課題となっています。

JICAは、従来より廃棄物管理分野の協力を多数展開していますが、2004年のシーアイランドサミットでの小泉首相(当時)の3Rイニシアティブの提唱を契機に、循環型社会作りや3R推進に対するニーズが増加しています。循環型社会の構築のためには、政策、制度、組織、技術面でのキャパシティの向上、さらには市民や小中学生の意識啓発まで、様々なアクターや分野を横断した取り組みが必要です。JICAは、日本の経験を元に、途上国の人々と協力して、循環型社会構築に向けた取り組みを積極的に行っています。



JICAのアプローチ

3Rの推進のためには、国、地方自治体、市民そして民間セクターの協働が必要であり、JICAでは、各関係主体の対処能力向上と連携強化を主眼とした協力を実施しています。

1 国家レベルの法制度整備

3Rを通じた循環型社会の構築に向け、廃棄物の適正管理や排出抑制、再利用やリサイクルによる減量化を国家レベルで推進するための法制度整備を支援しています。また、法令の実行を図るための基本方針や計画作り、計画の実行に対する支援や計画策定に必要な各種情報の整備支援を行っています。

2 廃棄物管理を担う自治体の対処能力強化

市民を巻き込んだ3Rの推進支援のための自治体レベルの廃棄物管理体制作り、実行計画作り、及び計画の実施支援等を行っています。また、コンポスト化などによる廃棄物の排出抑制や分別収集、コミュニティ回収などを市民と共同で進めていくための制度作りや住民の意識啓発、環境教育の推進などを行っています。

3 民間セクターの3R推進支援

民間セクターの廃棄物排出量抑制や資源の再利用を進めるため、リサイクル産業の振興、エコデザインの導入、企業の自主的取り組みを促進するための経済的手法の検討、資源の再利用や再資源化技術の紹介等を支援しています。また、民間セクターと行政や市民との関係をつなぐエコラベル制度やグリーン購入等の促進に対する支援も行っています。

研修：日本の経験を伝える

JICAでは、途上国の技術者や行政官を日本に招き、政府機関、自治体、企業、大学などの協力を得ながら、必要な知識や技術を伝えるための研修を行っています。3Rに関する研修は、廃棄物管理分野等、多数の研修プログラムの中で実施されていますが、特に下記の二つのコースは、3R及び循環型社会構築を主眼とした研修を行っています。

【集団研修】

廃棄物3R・再資源化（1990年～2008年（隔年実施））

産業廃棄物処理及び再資源化の分野に従事している技術者に対し、日本の産業廃棄物の再資源化の行政・技術両面の実状を講義・見学等を通じて紹介し、各国の産業廃棄物の再生利用技術・事業の向上と改善、さらには資源の有効利用（省資源）及び省エネルギーに資することを目的としています。

【地域別研修】

循環型社会の構築（2006年～2008年）

アジア諸国の環境行政官を対象に、福岡県内の環境リソースの紹介や意見交換を通じて、アジア地域における循環型社会ネットワークの前提となる廃棄物処理・リサイクルに関する法制度、行政の取り組み、事業者、技術などの情報の共有化を促進します。



リサイクル施設見学
（東京スーパーエコタウン）